

低価格・高性能の「ProCurve」で エッジネットワーク強化を積極提案

丸紅ソリューションは今年6月、ヒューレット・パカード社とスイッチ製品「ProCurve」に関する販売契約を結んだ。同社では、「インテリジェントなエッジネットワークの実現」をコンセプトとする新たな製品ラインナップで、効率的なネットワーク運用とコスト削減を積極提案する構えだ。

ネットワーク機器の有力ベンダーとしてヒューレット・パカード(HP)社の名前を挙げる人は、現在の日本では決して多くないだろう。

しかし、同社の製品開発・提供の歴史は25年におよぶ。「ProCurve(プロカーブ)」のブランド名で展開する製品群は、イーサネットスイッチだけでも40機種を超えている。しかもワールドワイドでは、市場全体が横ばい傾向を続ける中、2000年から03年で約2倍の売上増を達成。05年第2四半期には出荷ポート数で第2位を記録している。

こうした海外での高評価と高実績を捉え、自社のビジネス拡大に結び付けていこうというのが、丸紅ソリューション(MSOL)の狙いだ。ネットワークソリューション事業部ネットワークインテグレーション部営業一課の蒲沢功課長補佐は、「ProCurveは製品コンセプト、導入・運用コスト、機能のいずれをとっても、ユーザーのネットワ

ーク活用に大きなメリットをもたらすことは間違いなし」と自信を見せる。

ライフタイム保証で 保守費も低減

「ProCurve」の特徴を、蒲沢氏の発言に沿って紹介していこう。

まず、「アダプティブ・エッジ・アーキテクチャ(Adaptive EDGE Architecture)」という製品コンセプト。これは、インテリジェントなエッジネットワークの構築に最適な仕組みを提供するということ。

従来からのコアスイッチを中心とするネットワーク構成では、クライアント端末やアプリケーション、トラフィックの増加に伴い、スイッチへの過負荷が課題となっている。その解決策として、インテリジェントなエッジスイッチ「ProCurve」を導入すれば、認証やセキュリティも含めた処理負荷を分散できるというわけだ。

次に、導入・運用コスト面での優位

丸紅ソリューション株式会社

- PART 1 新生MSOLの紹介
- PART 2 スイッチ製品への新たな取り組み
- PART 3



丸紅ソリューション
ネットワークソリューション事業部
ネットワークインテグレーション部
営業一課 課長補佐
蒲沢 功氏

性を見てみよう。例えば、主力製品である10Gアップリンクポート対応のレイヤ3スイッチ「ProCurve Switch 3400cl」は、10/100/1000Mポートを44ポート備えるモデル「48G」が121万8000円(税込み)同20ポートの「24G」が63万円(税込み)となっている。このクラスの他社製品と比べると、2分の1から3分の1程度の価格だ。

加えて、製品を使用している限り故障時の無償交換を保証する「ライフタイム保証」と、ファームウェアの無償アップグレードにより、保守にかかるランニングコストも大幅に抑えられる。

また、オープンアーキテクチャの採用により、標準に準拠した他社製品との相互接続性を確保していることも、ネットワークの運用コスト低減に少なからぬ効果をもたらすはずだ。

機能面でのトピックとしては、レイヤ2/3/4スイッチ「ProCurve Switch 5300xlシリーズ」に搭載された2つの



レイヤ3スイッチ「ProCurve 3400cl-48G」
レイヤ2/3/4スイッチ「ProCurve Switch 5300xlシリーズ」(5372xl)

独自機能を挙げるができる。

1つは、ネットワーク利用を効率化する「HPスイッチメッシング」。複数のアクティブな冗長リンク間で動的に負荷を分散することにより、利用可能な総帯域幅を拡大する機能だ。

もう1つは、セキュリティ強化に役立つ「ウィルススロットリング」。ネットワークウィルスを検出し、ポートブロックすることで、VLAN経由でのウィルス拡散を防止する。

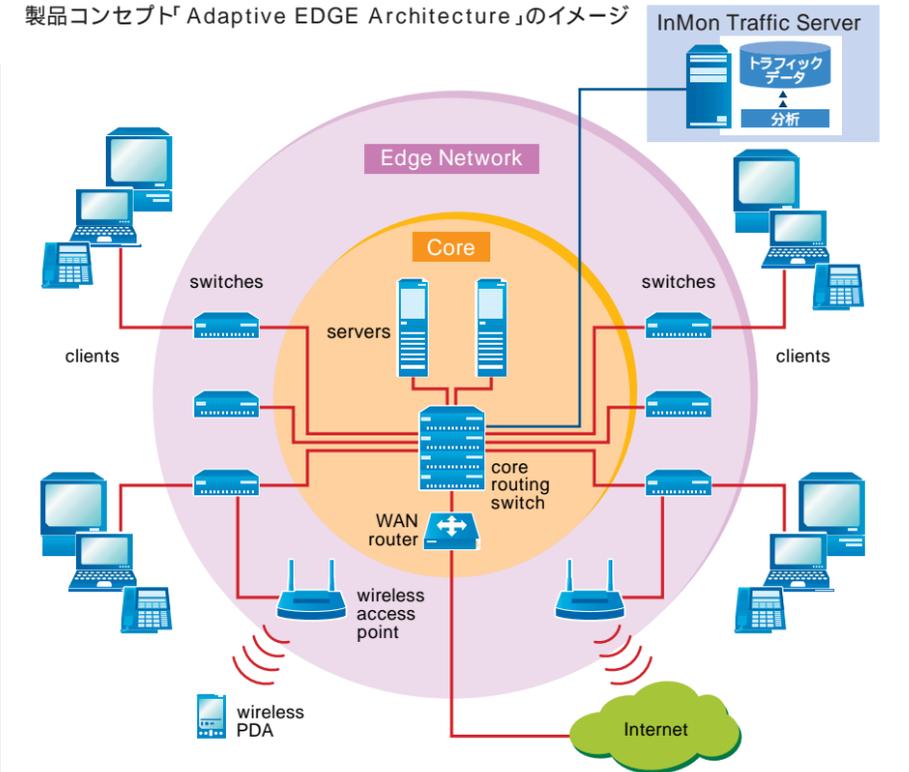
さらに蒲沢氏は、スイッチ製品では希少なWeb認証機能もポイントに挙げる。「ローエンド機種でも対応しているProCurveは、クライアント端末側での使い勝手のよさと、運用管理面での負荷軽減を強く訴求できる特徴として期待している」という。

sFlow 対応監視ツールも セットで提案

MSOLでは、「ProCurve」の販売に関して、これまで扱ってきたネットワーク機器と同様、ディストリビューター経由での提供と直販による提案を進めている。ただし、具体的な戦略には、従来にない手法が盛り込まれている。

一般企業をメインターゲットとするディストリビューター経由での展開では、HP社のサーバーを扱っている販売店を積極的に取り込んでいく考えだ。

もちろん、同社が代理店契約を結ぶ以前も、HP社のサーバー販売チャネルでProCurveは提案されてき



た。だが、ネットワークインテグレーターであるMSOLのサポートがつくことで、販売側もユーザー側も安心感を得られることは間違いがない。

他方、同社が国内総代理店を務める米Inmon社の高速ネットワーク向け管理ソフトウェア「Inmon Traffice Server」を組み合わせ、機器単体のディストリビューションのみならず、バリュー・ディストリビューションの展開にも力を入れている。

このソフトウェアは、ネットワーク管理プロトコル「sFlow (RFC3176)」に対応。これにより、ギガビットスピードのネットワーク内のトラフィックを、統計技術に基づくパケットサンプリング手法で効率的にモニタリングできる。また、最大で約5万ポートの常時監視が可能な拡張性や、リアルタイムで

の輻輳監視や障害切り分け、アプリケーションレベルでの利用状況把握といった機能を有している。

実は「ProCurve」も、エッジスイッチでは唯一sFlowをサポートしている。つまりMSOLの提案は、インテリジェントなエッジネットワークと、きめ細かなトラフィック監視を同時に実現するものなのだ。蒲沢氏によれば、「ProCurveとInmon Traffice Serverを組み合わせたシステムは、不正アクセスなどに対するセキュリティ対策の一環としても大きな効果を発揮する」という。

MSOLのこうした積極展開によって、国内市場におけるHP社のネットワーク機器事業の成長率が、ワールドワイドレベルに追いつく日もそう遠くないかもしれない。

* ライフタイム保証は一部対象外の製品があります。